

文芸ひろば

詠歌の紹介

千代田俳句同好会

常陸路や浦風野風青葉風
大御堂木の間にちりり初夏の湖
山門へぬける細道蟻の列
古民家の厩に荷鞍夏炉焚く
池の端に静かに咲きし夏薊

紫陽花俳句会

チューリップ揺れて幼き日の私
白椿汚れなき身を地に還す
合唱にハス加わる蛙達
花見酒いい顔ぶれのそらいたる

出島短歌会

たえまなく推の若葉に音しつ風ある朝の空を愛しむ
登り坂まして下りもついで来る寄り道しつ生さるも樂し
タンポポが今日は綿毛をそよがせる路地真ありて陽が射している
いつの間にか青葉若葉の微風に匂いのありて心満たさる

投稿作品

城跡と記せし文字も痛ましく雑草伸びて夏風の去る
姫沙羅の散り敷く庭に音もなく單月の雨は哀調深し
背をまるめ心に音も配り行く排気の臭い残る朝刊
何はあれ親にすがるよりなき児らの恐れ戸惑いかはかりしや
誰にでも心に悪は潜むのか妙に心酔紙の月読む
地震のあと夫婦は同じ部屋にする
庭あそびやや目で追ふ春の蝶

榎原清志
桜井愛子
桜井筑娃
中島暉子
萩原初枝

久保慶悦子
車田きみ
田能幸雄
萩原とし子

岡田恭子
名倉親子
浜田留子
飯島ヒロエ

石塚清
浩野はつ子
吉田正道
中島良平
菅谷味子
やまうちいさむ
扶美世

▶投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集しています。7月4日(日)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562番地)へお願いします。
なお、応募多数な場合には掲載されない場合がありますのでご了承ください。



2016 スポレク祭

スポーツの力で
地域を元気に!

Camera Report

5月8日、わかぐり運動公園でKSC なかよしスポーツクラブ・KSC エンジョイスポーツクラブ主催「2016 スポレク祭」が行われました。好天に恵まれ、小さいお子さんから大人までたくさんの来場者が集まり、さまざまなスポーツを体験しました。あゆみ太鼓による演奏やよさこいソーランなどの演舞も披露され、スポーツの力で元気あふれた1日となりました。



フォトアルバム



わがふるさと 史宝をたずねて

市民学芸員が行く

シリーズ③

稲吉宿本陣坂本家住宅

江戸時代の街道筋に設けられた本陣・脇本陣は、支配者階級のための専門旅館でした。本陣は、主として幕府の公用人、大名などの休泊に使われ、脇本陣は、本陣で泊まる事が出来ない場合に使用される旅館です。空いている場合は、一般の旅人も利用できたようです。その建築は本陣造といわれる雄大なもので、門、玄関、上段の間を持つ特色があります。稲吉宿本陣の玄関の屋根の上部には領主本堂家の家紋(笹りんどう)が付けられています。

水戸街道にも本陣は、たくさん設置されていましたが、現在では取手宿・中貫宿・稲吉宿のみ、その遺構を見るに過ぎません。またここには、樹高7m、胸高周68cmの見事な榎があります。樹齢は約200年といわれ、本陣の庭園を彩る庭木として、江戸時代に植えられたものと思われま。

稲吉宿本陣を通る水戸家大名行列の為に、前日・当日・翌日3日間て人足1638人・馬745疋を使用したことを示した文書(明和3年・1766年)があります。この時は、稲吉宿のみでは足りないために近隣の村々から人馬の協力を得ました。

した。このように宿駅が、他村から人馬の協力を得る制度を「助郷」といいます。交通が次第に多くなると、人馬の需要は著しく増加していきましたので、宿駅の常備人馬では不足をきたし、ここに「助郷」が制度化されていったのでした。

ここ稲吉宿では、水戸家参府の時の記録では、領内の村々はもちろん、東は男神村(かすみがうら市)から西は大島村つくば市など助郷村49カ村の人馬が集まり継立貨客を宿駅から宿駅へ送り継ぐ(こ)を行っていました。

もともと宿駅の人馬役は、百姓の仕事以外に課せられた労役で、交通量が増えれば負担が重く押し掛かっています。この負担が下稲吉村の疲弊につながり安永の一揆(助六一揆)の要因にもなっていました。

今回は旧福田家住宅・板倉を紹介いたします。

(深井 征一郎)

※稲吉宿本陣は外から「見学」ください。
郷土資料館
☎029(896)0017



↑市指定文化財(稲吉宿本陣坂本家住宅) (下稲吉 140)